

PCAPS 研究会・QMS-H 研究会合同シンポジウム
医療社会システムの確立に向けて

平成 23 年度最終成果報告

PCAPS 研究会
臨床知識の構造化と活用

プログラム

日時：2012 年 3 月 10 日（土） 10:00～17:30 終了予定（途中昼休憩 1 時間）

会場：東京大学 安田講堂

医療の質・安全保証の実現をめざして、臨床プロセスの構造的可視化をすすめる PCAPS 臨床知識コンテンツの開発と活用には、医療エキスパート、研究者、医療関連組織、PCAPS-IMT コンソーシアム会員事業者、検証調査協力病院のボランティア協力があります。これらの方々がやろうとしていることは、医療の質の向上であり、それを実現するシステムを社会に実装することです。

H23 年度は、これまで開発されてきたコンテンツを用いて、PCAPS 一般化臨床プロセスモデルを開発しました。この一般化臨床プロセスモデルの全体・部分を活用した PCAPS コンテンツ開発が始まり、これまでに比べ、短期間で精緻なコンテンツ開発をすることができるようになりました。現在、コンテンツ増産プロジェクトでは、導入希望病院で使用するコンテンツを優先して開発しています。病院全体で PCAPS が実装された状態を実現することができそうです。

臨床知識の標準化のために、学会とガイドラインの関係が整理されました。PCAPS を用いることで、学会ガイドラインの整備を支援するしくみを設計するモデルを開発しました。このモデルに従って、いくつかの学会にはたらきかける動きを始めています。加えて、医療の質改善につながる、がん診療プロセスの質評価指標の開発と計測システムの研究がすすみ、H23 年度は病院の診療プロセスの質評価と改善をすすめることができるツールを開発中です。

研究メンバーは、PCAPS の社会実装によって、医療の質を享受できる社会にしたいと考えています。本シンポジウムにぜひご参加していただき、意見交換をお願いいたします。みなさまのご参加をお待ちしています。

PCAPS 研究会

代表：飯塚悦功

副代表：水流聡子・棟近雅彦

主催：東京大学工学系研究科 医療社会システム工学寄付講座

共催：PCAPS 研究会、QMS-H 研究会、(社)日本品質管理学会（JSQC）医療の質・安全部会

後援：PCAPS-IMT コンソーシアム

研究助成：平成 23 年度厚生労働科研がん臨床研究事業（飯塚班）

平成 23 年度厚生労働科研第 3 次対がん総合戦略研究事業（若尾班）

平成 23 年度厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業（中山班）

研究協力：厚生労働科研難治性疾患克服研究事業（梶野班）

司会：棟近雅彦（早稲田大学）・水流聡子（東京大学）

午前の部

10:00-10:05

開会の挨拶：PCAPS 研究会のねらい

飯塚 悦功（東京大学）

10:05-10:20

I：PCAPS：臨床プロセスモデル・臨床運用モデル・臨床分析モデル

水流 聡子（東京大学）

10:20-11:20

II：PCAPS 実用化に向けた実装トライアル

- ・「PCAPS Administrator 実装トライアル報告（周産期医療 母体管理）」

小口秀紀（トヨタ記念病院産婦人科）

- ・「PCAPS Administrator 実装トライアル報告（周産期医療 新生児管理）」

宮崎のどか（トヨタ記念病院産婦人科）

- ・「訪問看護ステーションにおける PCAPS システム実装に向けて」

佐野けさ美（スギメディカル株式会社）

- ・「生体肝移植チームの報告」

中田知廣（神戸先端医療センター）、山田貴子（川崎医科大学）、田中紘一（神戸先端医療センター）

- ・「脳神経外科領域での PCAPS 実装 一病棟と手術室の連携を中心に」

名取良弘（飯塚病院脳外科）、成松慧（飯塚病院手術部）

11:20-12:20

III-1：PCAPS による臨床分析事例

- ・「小児科領域における 2 年間の臨床分析を振り返って～その限界と展望～」

本木隆規（葛飾医療センター）

- ・「乳がんの臨床プロセスチャートと検証調査結果解説」

青儀健二郎（四国がんセンター）

- ・「腎臓内科の臨床プロセスチャートと検証調査結果解説」

藤井直彦（兵庫県立西宮病院）

- ・「リンパ浮腫の臨床プロセスチャートと検証調査結果解説」

北村 薫（ナグモクリニック福岡）

12:20-13:20 昼休み（60 分）

『医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化（3）

患者状態適応型パス [臨床知識の精緻化・一般化・実装』（日本規格協会） 定価：5,880 円(税込)

飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦監修 患者状態適応型パスシステム研究会編著



午後の部

13:20-13:50

III-2:PCAPS による臨床分析事例

- ・ 脳血管障害後急性期のリハビリ介入:井手睦、中島栄子 (聖マリア病院)
- ・ COPD 増悪時の介入内容調査:茂木孝 (日本医科大学病院呼吸ケアクリニック)、堀江健夫(前橋赤十字病院)

13:50-14:50

IV: パネルディスカッション:「他プロジェクトにおける PCAPS の展開」

- ・ パネルリーダー: 飯塚悦功 (東京大学・厚生労働省がん臨床研究飯塚班代表)
- ・ パネリスト :
 - ・ 中山健夫 (京都大学・厚生労働省診療ガイドライン作成研究 (中山班))
 - ・ 若尾文彦 (国立がん研究センター・厚生労働科研第 3 次対がん総合戦略研究事業 (若尾班))
 - ・ 梶野浩樹 (旭川医科大学・小児循環器学会)

14:50-15:50

V: パネルディスカッション:「がん診療プロセスの質評価
(「厚生労働科研 がん臨床研究 (飯塚班)」成果報告)

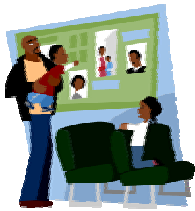
- ・ パネルリーダー (研究代表者): 飯塚 悦功 (東京大学)
- ・ パネリスト (分担研究者) :
 - ・ 矢野 真 (武蔵野赤十字病院)
 - ・ 名取 良弘 (飯塚病院)
 - ・ 青儀 健二郎 (四国がんセンター)
 - ・ 吉井 慎一 (ひたちなか総合病院)
 - ・ 吉岡 慎一 (兵庫県立西宮病院)
 - ・ 蒲生 真紀夫 (大崎市民病院)
 - ・ 水流 聡子 (東京大学)
 - ・ 棟近 雅彦 (早稲田大学)

休憩 (10 分)

1600-17:10

VI: ポスターセッション:
(ラウンド形式, 1領域質疑込 10 分)

※ポスターセッション会場は、メイン会場後方の廊下になります。



発表コンテンツ領域 ※発表者等の詳細については別紙を参照してください。

【ストリームⅠ】 座長:名取良弘 (飯塚病院) ・がん薬物療法 ・手術 ・消化器外科 ・リハビリ (言語療法) ・リハビリ (理学療法・作業療法) ・慢性閉塞性肺疾患 (COPD) [リハビリ]	【ストリームⅡ】: 座長:吉井慎一 (ひたちなか総合病院) ・乳がん ・リンパ浮腫 ・周産期 ・腎臓内科 ・精神科 ・看護思考プロセス (一般)	【ストリームⅢ】: 座長:矢野真 (武蔵野赤十字病院) ・小児科 ・慢性閉塞性肺疾患 (COPD) [吸入指導] ・慢性閉塞性肺疾患 (COPD) [訪問看護] ・訪問看護・ ・回復期医療 ・栄養食事
--	---	---

17:10

VI: 閉会の挨拶:代表総括

飯塚悦功 (東京大学)



【シンポジウム会場】

会 場 ：東京大学本郷キャンパス安田講堂

研究会メンバー用昼食会場：工学部 8 号館 7 階 702 号室・706 号室・708 号室・722 号室

※がん質評価のパネリストの方は安田講堂内の控室

懇親会会場：『Bon Art』（Tel：03-3812-3212）

シンポジウム運営組織

代表	飯塚悦功（東京大学）	
副代表	水流聡子（東京大学），棟近雅彦（早稲田大学）	
運営 スタッフ	<PCAPS 事務局> 加藤 省吾（東京大学） 下野 僚子（東京大学） 小柴 研一（東京大学） 黒田 幸清（東京大学） 佐藤 典子（東京大学）	<学生スタッフ> 浦西 郁哉（東京大学） 阿部 徹（東京大学） 末政 憲司（東京大学） 谷中 瞳（東京大学） 伊藤 怜史（東京大学） 岡元 大輔（東京大学） 松岡 賢（東京大学）

問い合わせ先：

PCAPS 事務局

E-mail：Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL：03-5841-7301 FAX：03-5841-7276

本研究事業 HP：<http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。